

平成27年12月4日

No. 63

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

第15回青少年のための科学の祭典・日立大会

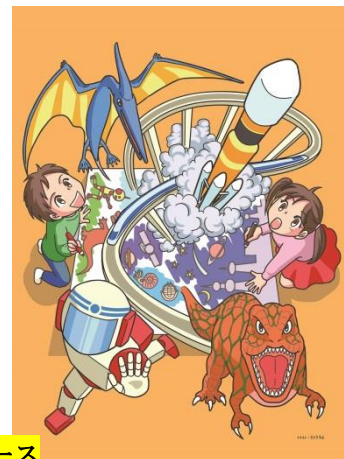
日立理科クラブ・4ブースの出展

11月29日(日)、日立シビックセンターマーブルホールを主会場にして、科学の祭典・日立大会が開催され、過去最高の5,812人の来場者で大いに盛り上がりました。日立理科クラブでは、4ブースの出展を通して、科学の不思議さやものづくりの楽しさを体験できるよう企画し、実践しました。日立理科クラブの出展内容を中心に科学の祭典を紹介します。

【日立理科クラブの出展タイトル】

- ☆ ふしぎなコップモーターをつくろう!
- ☆ 夕焼けはなぜ起きるのだろうか?
- ☆ 自分の声や楽器の音の形を見てみよう
- ☆ ソーラーカーの試乗とロケット車の発射体験

日立理科クラブのブース



出展タイトルにある内容は、実際に市内の小中学校で、支援授業の学習内容の一部として実施しています。今年の出展は51ブースで、どのブースも超満員の盛況で、この科学の祭典が、市内の小中学生に浸透してきていて、楽しみにしている子どもたちが大勢いることを改めて実感しました。うれしい悲鳴です。「ふしぎなコップモーター」の担当者は、「今までにない子どもたちの来場で、用意した材料が飛ぶようになっていきました。」と、うれしい感想を述べていました。

今回、初の試みとして「ソーラーカーの試乗」を新都市広場で行いました。300人以上の子どもたちが試乗し、乗るために並んでいる列が途切れなほど人気があり、小さな子どもはお父さんやお母さんと一緒に運転するなど、ほほえましい光景が見られました。このブースでは、理数アカデミーの受講生や駒王中、豊浦中の生徒がアシスタントになって、小さな子どもたちに車の動かし方、運転の仕方などを分かりやすく説明するなど、次の世代を担う子どもたちの活躍の場にもなっています。

また、15回の節目の大会として、特別事業「サイエンスセミナー」を実施しました。参加者の中には、理数アカデミーの受講生もいて、茨城大学名誉教授・田切美智雄先生の「日立カン

ブリア紀層から化石発見」と、茨城大学理学部教授・藤縄明彦先生の「火山噴火の成り立ち～キッチン火山学の仕組みを通して～」の活動に熱心に取り組んでいました。

今回の出展ブースでは、高校生や大学生に混じって、日立一高附属中や坂本中、豊浦中の生徒たちが大勢アシスタントとして参加し、大会を盛り上げてくれました。若い目線で、大会の一員として活躍している姿は、とても頼もしく、生徒たちにとっても貴重な体験になったことと思います。助川中は授業として全生徒が参加しました。



火山噴火の成り立ち



ソーラーカーの試乗

文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一
日立理科クラブ事務所 Tel/FAX 0294-24-3104